

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
E1140006	肢体不自由児の教育と指導法 (Education and Teaching Method for Children with Physical Disabilities)											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	3	教育学部			氏名 古賀 精治 E-mail skoga@oita-u.ac.jp 内線 7521						
授業の概要	<p>肢体不自由のある幼児・児童・生徒のための教育の歴史と教育課程を学んだ上で、彼らに特有の発達特性及びそのニーズに応じて開発された多くの教育や指導の方法に関して、その基本的な障害児観、発達観、具体的な指導技法について、VTR等を活用しながら理解を深める。</p>											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	肢体不自由児教育の歴史について説明することができる。											
目標2	肢体不自由のための教育課程の基本について説明することができる。											
目標3	肢体不自由児の運動障害に関する指導方法について述べるができる。											
目標4	肢体不自由児のコミュニケーションに関する指導法について述べるができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	肢体不自由児の教育の歴史											
2	肢体不自由児の教育の現状											
3	肢体不自由児の教育の実際											
4	肢体不自由児の教育に関わる学校教育法と学校教育法施行規則											
5	肢体不自由児の教育に関わる学習指導要領											
6	肢体不自由児の教育課程											
7	肢体不自由児の運動障害に関する指導法の概説											
8	動作法の歴史											
9	動作法の理論											
10	動作法の技法											
11	動作法の実践事例											
12	コミュニケーション障害の概説											
13	コミュニケーション指導の基本											
14	コミュニケーション指導の実際											
15	コミュニケーション指導の実践事例											
ラーニング	A:知識の定着・確認	バズ・グループ。				工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	配付したプリントを事前に精読しておくこと(15h)。										
	事後学修	学習した内容を振り返り、授業で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等により「調べ学習」に取り組むこと(15h)。										
教科書	教科書を指定しない。適宜、資料を配布する。											
参考書	「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」(文部科学省) 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」(文部科学省) 「肢体不自由のある子どもの自立活動ガイドブック」(2006年、国立特殊教育総合研究所(編)、ジアース教育新社)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	80%										
	平常点(受講態度・授業への取り組み方等)	20%										
注意事項	配付したプリントはファイルにまとめ、授業の時に毎回持参すること。教員としての資質を身につける授業であるから、遅刻、無断欠席、私語、居眠り、携帯やスマホの使用、授業と関係ない書籍を読んだり作業をすること等がないこと(平常点で考慮)。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											